

令和3年2月22日

保護者様

須賀川市立白江小学校長 善方 威浩

令和3年度からの「教育目標」の改定について

学習指導要領が全面実施され、求められる児童の姿や身につけるべき力、そのための小学校での「学び」にも変化が求められる今、学校の「教育目標」もそれに応じて変えていく必要があります。

これまで、改定案については、職員だけではなく、学校評議員会やPTA本部役員会でもご意見をいただきながら、検討を重ねてまいりました。その結果を踏まえ、この度、令和3年度から、「教育目標」を次のように改定することとしましたので、お知らせします。

なお、当初は2月19日（金）のPTA総会にてこれを説明させていただく予定でしたが、今年は、保護者の皆様が一堂に会さず、紙面承認の形を取ることとなったことから、本文書の配付をもってお知らせとさせていただきますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

<現 行>

○ 学校の教育目標

「自ら考え判断し、豊かな心でたくましく生きぬく子どもの育成」

- ・ （知性）考える子
- ・ （敬愛）やさしい子
- ・ （健康）たくましい子

○ 努力目標

- ① 自ら進んで課題を見つけ、解決できる力を育てる。
- ② 明るく広い心を持ち、相手を思いやる気持ちと行動力を育てる。
- ③ 健康的な生活習慣を身につけ、粘り強さを発揮して体力を高める。



<新たな「教育目標」>

○ 学校の教育目標

主体的・協同的に学び、豊かな心でたくましく生きぬく子どもの育成

- ・ **自ら学び、考え、行動する子ども**（知性）
- ・ **やさしく、思いやりのある子ども**（敬愛）
- ・ **健康で、たくましい子ども**（健康）

○ 努力目標

- ① 自ら課題を持ち、友達や地域の人達とともに主体的に学ぶことができる児童の育成を図る。
- ② 社会には多様な考えや価値観があることを知り、それを互いに尊重しようとする児童の育成を図る。
- ③ **めあてを持ち、最後まで粘り強くがんばることができる健康な児童の育成を図る。**

* 改定の理由やそれぞれの文言の詳しい内容を裏面に載せています。

（担当 校長 善方 威浩 電話65-2191）

<改定の理由>

子ども達がこれから生きていく時代は、A I との共存、新しい職業の創生と求められる力の変容、グローバルな労働市場、多文化共生、地球規模での気候変動や格差の拡大など、「変動性・不確実性・複雑性・曖昧性」の時代となることが予測されています。

学習指導要領「前文」にも、そのような時代の到来を見据えて、「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と示されています。

これらは、「学校経営・運営ビジョン」の策定や個々の教育活動を検討・実施する上で、学校の教育活動全体に通底するものとして重視すべきであることから、これらを「教育目標」に反映させ、本校教育のめざす方向として、より明確に示したいと考えたものです。

<教育目標のとらえ方>

①「主体的」

- ・ 知的好奇心を持つ（おもしろいな、やってみたいな、ふしぎだな、知りたいな…）
- ・ 自分から課題を持つ
- ・ 目標を持つ
- ・ 行動の変容まで想定した学び

②「協同的」

* 協同：同じ目的のために（精神的に）力を合わせる

＝一人一人の学び（個の追究）を互いに支える（用字用語は市教委による）

- ・ 友達や他学年、他校の児童と力を合わせる
- ・ 保護者や地域の方など外部の力を借りる（キャリア教育）、地域に根差した学び
- ・ 相手意識や相手を大切にす気持ち、友達や自分の「よさ」に気づく、「ちがいを大切にす、コミュニケーション能力の向上
- ・ 特別な支援が必要な児童（友達）とその合理的配慮への理解

③「学び」

- ・ 機械的に知識・技能を身に付けさせるだけではない学び
（しかし、そういう学びも必要であることは、間違いない）
- ・ 体験、話し合い、学び合い、先生と児童1対1ではないコミュニケーション
- ・ 知的好奇心を伴う学び
- ・ 地域に根差した課題から出発する問題解決的な学び

④「豊かな心」

- ・ 他者に対する思いやりの心
- ・ 自分を見つめる心と自己肯定感
- ・ 地域を大切にしようとする心
- ・ 諸問題を自分のこととしてとらえる感性
- ・ あいさつや返事なども含めた基本的生活習慣

4 教育目標の具現のために「めざす学校像」

「やりたい！」がつながる学校

- 子どもも先生方も「やりたいこと」がある学校
- 子どもも先生方も「やりたいこと」ができる学校
- 子どもも先生方も「やったこと」を認め合う学校

- ① 子どもたちには、これまで、「どんな小さなことでもいいので、目標をもって過ごしてほしい」と話してきた。
- ② 先生方に対しても、職員会議において、「新鮮さ…学びの心、得意技を伸ばす、専門性を高める<それぞれの立場で「一つの目標」>」をもって職務にあたっていたきたい、とお願いしてきた。
- ③ 「もっとステキな白江小学校」アンケートでは、特に高学年児童から、具体的な提案がなされている。
- ④ 事の大小を問わず、またその結果がどうであれ、子どもたちがやりたいことを見つけ、やりたいことができ、互いにやったことを認め合うことができれば、それは「教育目標」の具現につながる、立派な教育活動である。先生方には、その実現をサポートいただきたい。
- ⑤ 先生方にも、目の前の子どもたちを見て、これまでのご経験を踏まえながら、教育目標で示す授業の実現に向けて、「こんなことをやってみようかな」という思いを持っていただきたい。これは、新しいことを開発する・今の実践に新たなものを積み上げる、ということではなく、少し意識的に・少し時間を長く・少し機会を多く・少し積極的にと、バランスのかけ方を変えていただくイメージである。

...